式 辞

いつもより早い春の訪れに、万物の命の特別な勢いを感じる今日の佳き日、御来賓として、同窓会会長・定時制後援会長 福田武隼（ふくだ たけとし）様、PTA会長 阿久津亮（あくつ まこと）様、山田志利（やまだ しとし）様、並びに保護者の皆様の御臨席のもと、「平成二十七年度、栃木県立真岡高等学校入学式」を挙行できますことは、本校にとりまして大きな慶びとするところです。

ただ今入学を許可いたしました、二百二十名の新入生の皆さん、入学おめでとう。教職員一同、皆さんの入学を心から楽しみにしていました。

先ほどの呼名に際して、皆さん一人一人の「はい」という返事からは、春の薫りのように爽やかで心地よいものが伝わってきました。それは、自分で選んだこの学校でのこれからの3年間で、さらに将来へとつながっていく道でもあるという自覚、新しい世界に飛び込んでいこうとする皆さんの希望や期待、決意が伝わってきたからに他なりません。

この返事は、スポーツに当てはめれば、開会式での選手宣誓。今皆さんの中にある初心を忘れることなく、自分の力で自分の未来を切り開いていくための知識と心の強さ、行動力を身に付けるための3年間の決意であると理解しています。

今日はそのスタートとなる大切な日です。この大きな節目に際して、私から皆さんに思いを込めて、二点話をします。

まず、「念ずれば花開く」ということ。詩人である坂村真民（さかむら しんみん）さんの言葉です。「念ず」とは、「自分は何ができるようになりたい」「自分は何になりたい」などと、心に強い願いを持つこと。持ち続けること。そうすると、その願いが自分の日々の行動に自然と現れてきて、自分が変わっていく。周りの見る目も変わってくる。例え、一日一日の変化は小さくて目に見えなくとも、確実に積み重なっていくものが自分の中にできてきます。そしてある時つぼみが生えて、そこに大きな花が咲くこととなります。そういう意味を持った言葉です。

真実であろうと思っています。なぜなら、この願望を持つということは、言い換えれば、自分が進もうとする道の標を持つということであって、そこに主体的な行動が生まれます。どうしても、どうしてもという強い思いは工夫の上手な人間を育てます。そして、何より意志の強い、根性の据わった態度を作るからです。逆にこれがないと日々の活動が受け身になり惰性で時間が過ぎることになりかねません。「念ずれば花開く」を裏返せば、「念ぜずば花開かず」となります。

皆さんには、将来の生き方や在り方までを含めて、なるべく早く、夢や希望、強い願望を自分の中に育てて欲しいと期待します。何事かを為そうとする時、できるかできないかを先に考えれば、出てくるのはためらいです。自分が超えるべき壁がどんなに高く大きく見えようとも、まずは自分から近づいていくこと。近づこうとする一歩ごとに若者は力を身に付けていくはずで、そして、近づいて見れば、遠くから見た景色とは違った現実がそこにはあるはずなのです。

二つ目は、「謙虚さ」ということです。

言うまでもなく学校は学びの場です。学ぶということは、今の自分を新しい自分に変えていくこと、新しい力を身につけるということですから、謙虚さが必要です。謙虚さ

はそのまま吸収力と言ってよいと思います。せっかくの機会があっても、謙虚な態度を持たない人は、学びの効果が十分なものとはならないし、自分にとってのチャンスがきているのにそれに気づかないから、同じように学習に臨んでも身に付くものに差が出てきてしまいます。勿論、高校生として自ら考え判断し、適切な行動を選択していく力を高めることは、実に大切なことです。謙虚さと受け身になるということは全く違うことです。学校は様々な学びの機会を提供します。その中で多くのことを吸収しながら、しっかり自分を育てることができる高校生であってほしいと大いに期待しています。

また、学校は大勢の生徒と教職員が目的をもって生活を共にする場でもあります。言ってみれば、学校は小さな社会とも言えます。大人は、社会をより良いものにするために責任や義務を共有しています。皆さんは、まだ大人ではないけれど、しかしもう子供でもない。この小さな社会の一員としての責任を自覚しながら、よりよい学校づくりに参加する主体的な行動力を身に付けようとするのが、将来大人として自立するために実に重要なことでもあります。

強い願望を持つこと、謙虚な学びの姿勢に基づきながら主体的な行動力を高めること、このことをしっかりと肝に銘じる入学式にしてほしいと願ってやみません。

さて、ご列席いただきました保護者の皆様、皆様のお喜びもひとしおと御推察申し上げます、改めてお祝いを申し上げます。まことにおめでとうございます。

また、この場を借りまして皆様にはお願いもございます。

学校といたしましても、生徒諸君が社会の有為な存在として活躍するための成長を全力で支えてまいります。保護者の皆様におかれましても、お子様の成長をともに支える仲間として、これからの本校の教育活動に対する御協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、ご来賓の皆様には御多忙の中、御臨席を賜り、新入生の晴れの門出に花を添えていただきました。新入生共々心から感謝申し上げますとともに、今後とも本校の教育活動に対して、御理解、御支援を賜りますよう、改めてよろしく願い申し上げます。

終わりに、本校の伝統的な教育理念である「至誠」の意味に新入生と共に思いを致し、また、新入生諸君の限りない可能性に大きな期待を込めながら、入学式の式辞を閉じます。

平成二十七年四月七日

栃木県立真岡高等学校長 菊地 透